

令和3年度行政評価外部評価意見

(1) 協働について

- ・ イベントを市民が関わるができる参加型のものにしてはどうか。
- ・ 市民全員が誰でもやってこそ「〇〇の町」と言えると思うので、市民全員で取り組むものもあっていいのではないか。
- ・ 市内の企業にも市のイベントへの参加を呼びかけるなど、企業との協働も進めてはどうか。
- ・ ボランティア活動があれば参加したいという中学生が結構いる。情報が学校にも入るようにすれば、生徒との協働にもつながるのではないか。
- ・ NPOやボランティアの活動促進のため、新潟NPO協会のような外の団体と連携してボランティアイベントなどをして、他の団体を巻き込んでいてもらいたい。
- ・ イベントを中条地区だけでなく、いろいろな地区でももっとやってもらいたい。
→市民による取組、協働による取組が増えることで可能になっていくことも考えられる。
- ・ 市民団体等が実施する事業への市役所職員の協力・ボランティア参加について、市民団体から依頼しやすい雰囲気を作りながら進めてもらいたい。
- ・ 市役所にNPO法人に関する相談窓口があることが知られていない。
- ・ 事業やイベントを企画する上で、市がアピールしたいもの（場所・食材・特産品）など市の方向性がわかれば、それに合わせたものを企画しやすい。
- ・ 市役所にかたい場所というイメージがある。市とのコミュニケーションをとる上で入りやすい市役所、普段から行きやすい市役所をつくってはどうか。話をしやすい市職員であってほしい。
- ・ 土日でも市役所に事業の相談ができるといい。

(2) 広報について

- ・ 伝える内容に誤解のないような表現をしてもらいたい。市報に掲載されていた施設の収支が実際は赤字なのに、黒字であるように誤解していた人がいた。
- ・ 口コミでの情報拡散を狙って、イベント等の情報をさまざまな団体や発信力がある人に発信してもらってはどうか。
- ・ フリーペーパーと連携して情報を掲載してもらい、市報にも詳しい情報が載っていることを紹介してもらってはどうか。
- ・ 市報は若い年代はあまり見ていない。文字が多いので読むのに時間がかかるし、スマホに慣れていて紙面を読むのに慣れていないのではないか。
- ・ 特に15日号のお知らせ版は文字が多くて見にくい。
- ・ 市報の発行を月1回に減らして情報を集約し、内容を濃くしてはどうか。

- ・カラーにしたり、見出し・写真・表などを大きく、文章は少なくするなどして、見やすくしたほうがいい。
- ・胎内市の特徴を出したインパクトのある広報の仕方が必要ではないか。
- ・地域おこし協力隊の活動のように、市報に載ることで市民がわかるものがある。ふるさと納税を何に役立てているかといったことなども市民に広報することは大事なのではないか。
- ・市内の身近な人や企業を取り上げるコーナーがあれば目を引くのではないか。
- ・市民が集まるような場所に広報スペースを設けてはどうか。

(3) 広聴について

- ・座談会（タウンミーティング）の開催が減っているので、開催を増やす方法を検討してもらいたい。
- ・市内の仕事や学校で通ってきている人たちや、20代の人たちの声を聞く場があればいいと思う。
- ・区長会議で意見を担当部署に直接言うよう話がありその場で意見を言えなかったことがあったが、担当者だけでなくほかの参加者にも意見を聞いてもらえることが大事なのではないか。

(4) 市役所の窓口について

- ・市役所に用事があってもどの窓口に行けばいいのかわからない市民が多い。また、たらい回しにされることもあるので、市民からの用件を何でも受付する部署・窓口をつくってはどうか。
→どの部署でもまずはよく話を聞いた上で担当部署を判断し、スムーズに繋げられる体制にしたい。
- ・市役所は窓口で声をかけても気付いてもらえなかったり、職員と距離を感じて話しにくい雰囲気があるので、変えてもらいたい。
- ・話しやすい雰囲気をつくるために、職員の服装を変える、ネクタイをやめる、作業着を着るなどはどうか。